

夏の風物詩に舌鼓

青井岳ソーメン流し

夏休み期間に営業し、青井岳公園名物のソーめん流しを楽しめる「滝水亭」のオープンに先立ち、試食会が7月17日に開催されました。

同会に関係者や宮崎市内の幼稚園児ら20人を招待。園児らは、施設周辺を流れる水路や滝で涼みながら、流れるソーめんを箸で上手につかみ取ると、口いっぱい頬張っていました。貴島はなちゃん(6歳)は「ソーめん流しは初めての体験。おいしくてとても楽しかったの、お父さん、お母さんともまた一緒に食べにきたい」と満足そうに話していました。



冷たい水も何のその

関之尾緑の村プール開き

関之尾緑の村のプール開きに合わせ、安全祈願の神事と幼稚園児による初泳ぎが7月18日に行われました。井戸水を使用し、夏でも冷たいと評判の同プールに、清涼幼稚園の園児約60人を招待。園児らは準備体操のあと、一斉に水しぶきをあげてプールに飛び込み、滑り台で遊んだり、水の掛け合いをしたりして夏の訪れを楽しんでいました。真鍋優ちゃん(庄内町・6歳)は、「水が冷たかったけど寒くはなかったです。泳ぐのが大好きなのでとても楽しかったです」と話していました。



夜空に大輪の花が咲く

高崎夏まつり

高崎夏まつりが8月3日、高崎総合公園で開催されました。市内外から多くの家族連れが来場。来場者らは、東霧島龍神太鼓の演奏やトライアルバイクショーの演技に魅了されていました。また、祭りを彩る1万発の花火が夜空に打ち上げられると、場内からは大きな歓声が沸き上がりました。商工会青年部長の橋口崇さん(高崎町大牟田)は「天候の悪い中、多くの人に来場してもらえて嬉しい。最後の花火まで、存分に楽しんでもらいたい」と、祭りの成功に手応えを感じていました。



平和を守ることを誓って

戦没者・空襲犠牲者合同追悼式

戦没者や殉職者、空襲犠牲者を追悼し、恒久平和を祈念する合同追悼式が8月6日、総合文化ホールで開催されました。遺族や関係者716人が参列し、1分間の黙とうの後、池田市長が追悼の辞を捧げ、遺族代表者らが献花。祝吉小学校の児童4人が、千羽鶴を献納し冥福を祈りました。式典では6年生128人が、戦争について学んだ成果を群読。「平和な世の中を築いてくれた戦争体験者の皆さんの気持ちを忘れず、尊敬の心で接していきます」と、平和を守っていくことを誓っていました。



5年間で1万4,000人の市民と交流 モンゴル国際交流員離任式

国際交流員を5年間勤めたバヤンバト・ムンフバヤルさんが7月24日、市長に離任のあいさつをしました。「ムギちゃん」の愛称で親しまれたバヤンバトさん。モンゴルの文化の紹介や、イベントなどの参加を通して、市民の国際感覚の醸成に努めました。バヤンバトさんは「いろいろな人と交流できて充実していた。また都城に帰ってくるので、今後も都城の発展に協力していきたい」と話していました。バヤンバトさんは都城の魅力を市内外に発信する「みやこんじょ大使」の委嘱を受けました。



身近なところで遺跡を発見 遺跡発掘体験と縄文土器作り

遺跡の発掘体験と縄文土器作りが7月26日、高城運動公園で行われました。発掘作業などを通して、考古学に興味を持ってもらおうと市が企画。参加した子どもらは、同公園内で発見された、火おこし跡の発掘や、地層から推測される火山噴火の説明などを聞いて、学びを深めていました。また、縄文土器作りでは、飾りや模様付けをしてオリジナルの土器作りをしました。松森朱音さん（川東小）は「6年生になって、歴史を学んでいるので参加した。土器の飾りつけが楽しかった」と話していました。



滝に浮かぶ朱色の杯 お雪さんの杯流し

関之尾滝にまつわる伝説を再現する「お雪さんの杯流し」が7月26日、関之尾滝上流で行われました。約600年前、城主が催した宴で粗相し、それを嘆いて杯を手にとり、滝に身を投げたお雪さん。以来、滝つぼに杯が浮かんでくるようになったと言います。その伝説にちなんで、頭巾に着物姿のお雪さんにふんじた4人の女性が、おみき酒を捧げ杯を流しました。花房美香さん（庄内町）は「子どもの頃から遊びに来ていたが、言い伝えを知らなかった。参加できて良かった」と笑顔を見せていました。



視覚障がい者への理解深めて 点字図書館わくわく塾2014

視覚に障がいのある人への理解を深めてもらおうと7月29日、総合社会福祉センターで点字図書館わくわく塾が行われました。小学生やボランティア約80人が参加。盲導犬に関するクイズや盲導犬の誘導体験、点字用紙を使った風車づくりなどを通して、視覚障がいへの理解を深めていきました。盲導犬の誘導体験をした政野光玲さん（西小5年）は、「何も見えない中歩くのは怖かったけれど、盲導犬がしっかり誘導してくれたので歩くことができました」と盲導犬の賢さに感心していました。





人の風景

smiling faces of miyakonojo

高崎の美味しいと笑顔をお届けしています
高崎町農産加工センター事業協同組合

左から 山下 芳子さん
村吉 米子さん
中津 チリ子さん

優 良組合として、平成26年5月に開催された宮崎県中小企業団体中央会の総会で、宮崎県知事表彰を受賞したのが、山下芳子さん（高崎町笛水）が理事を務める高崎町農産加工センター事業協同組合です。

同組合は、平成17年に設立。その翌年からは高崎町農産加工センターの指定管理者として施設を運営しながら、地域で生産される農産物を販売するだけではなく、付加価値を付けた特産品の開発や加工販売、地産地消の推進にも取り組んでいます。

事業を始めた当初から、取り扱う農畜産物は地元のものに限定。加工品の原材料についてもできるだけ地元農産物を用いるなど、地産地消にこだわって取り組んでいます。最初は農畜産物の販売が中心でしたが、加工品の数も増え、現在では、みそなど約50種類を取り扱うまでになりました。

店舗販売だけではなく、祭りなどのイベントにも積極的に出店。知名度を高めることで、市内はもちろん、市外のファンも増えていきました。「手間ひまかけた味と、旬の食材を用いていることが喜ばれているのでは」と自信を見せる山下さん。



その一方で、「生産者の高齢化や、後継者不足で供給が不安定になることが心配」と話します。

このことから、若い人に食や農業へもっと目を向けてほしいとの思いで、高校生のインターンシップ受け入れなど、若い世代が生産者や農産物に接する機会を増やす試みを続けています。また、そのような取り組みと合わせて、地元小学校で郷土料理の実習指導を行うなど、食育にも力を注いでいます。

山下さんは「郷土料理を初めて食べる子どもも多い。地元の食材のおいしさを伝えるとともに、郷土の文化も伝えていきたい」と意気込みを語っていました。

霧島七景



■湧水町から見える霧島山

湧水町では「湧水町から見える霧島山（栗野岳）の絶景」というテーマで、公民館学級「デジタル写真教室」の会員から作品を募集し、写真15点が集まりました。今回はその中から、轟地区在住の田中一典さんが撮影した「沢原高原から望む栗野岳」の写真を紹介します。

■栗野岳

霧島山の起源は、「加久藤カルデラ」だと言われています。そのカルデラの中に、最初に出現した山が栗野岳です。

写真中央の小さい栗野岳の裾野に広がる草原は、今から約30万年前に形成された「栗野



岳溶岩台地」と呼ばれるもので、岩が長い年月をかけて風化してきたと推測されています。そして、その手前のゴツゴツした岩石の上に広がる草地は、約3万年前に形成された飯盛溶岩台地です。このように、栗野岳は、年代の異なる溶岩台地を一目で判別できる地質学的に珍しい地形です。

■沢原高原

九州では阿蘇に次ぐ大草原で、黄色くかわいらしい花を咲かせる「ユウスゲ」や「ハルリンドウ」をはじめ、希少な動植物が生息しています。

この高原は、陸上自衛隊霧島演習場内にあるため、一般には開放されていませんが、毎年7月中旬に開催されるイベント「ゆうすげを観る夕べ」のときに、これらの動植物を鑑賞することができます。

◎問い合わせ

湧水町役場総務課

☎ 0995-74-3111

※環霧島圏域のイベント情報を、市ホームページで紹介しています



盆地生まれの元気をいただきます

1日の野菜摂取量は350g

ナスと豚肉の田舎煮

※1人分187kcal、塩分1.3g

ナスの皮の紫色は、ナスニンと呼ばれるポリフェノール一種で、強い抗酸化力を持ち、がんや生活習慣病の元になる活性酸素を抑える力があります。

ポイント ナスは炒めてからいったん取り出し、最後に調味料で煮絡めるときに加えると、彩りよくできあがります。



- 材料（4人分） ※大…大さじ 小…小さじ
- ナス…320g こんにやく…240g
 - サイインゲン…80g
 - 豚肉…240g 酒…小2 濃口しょうゆ…小2
 - 片栗粉…大1 油（ナス・こんにやく用）…小2
 - 油（豚肉用）…小1
 - A〔だし汁…200cc 砂糖…小2 みりん…小1 酒…大2 味噌…30g〕

●下準備

豚肉…酒と濃口しょうゆで下味を付け、片栗粉をまぶす
ナス・こんにやく…一口大に切り、鹿の子の切り目を入れる

●作り方

- ①フライパンに油を熱し、豚肉を炒め皿に取る
- ②フライパンに油を熱し、ナスとこんにやくを炒める
- ③②のフライパンに炒めた豚肉とAを入れて、煮絡めて皿に盛り、彩りにサイインゲンを添える

◎問い合わせ 健康課 ☎ 23-2765

ちょっとひと工夫 豚肉に下味をつける時、ショウガやニンニクを加えると違った風味を味わうことができます。